

令和5年度
横浜市港南区民文化センター
指定管理者評価報告書

令和7年2月

横浜市港南区民文化センター指定管理者選定評価委員会

横浜市港南区役所

目次

I	指定管理者業務評価について	P 2
1	協定の確実な執行	
2	執行確認としての評価	
3	評価の結果の通知と公表	
II	横浜市港南区民文化センターの概要	P 4
1	施設概要	
2	施設の役割	
3	これまでの運営状況	
4	施設の基本的役割（第4期指定管理者選定の公募時に示したもの）	
5	指定管理者	
III	評価	P 7
1	行政によるモニタリングを通じた業務執行の確認	
2	評価（自己評価、行政評価、外部評価）	
3	横浜市港南区民文化センター指定管理者選定評価委員会による総評	
IV	資料	P11
1	横浜市港南区民文化センター指定管理者選定評価委員会委員名簿	
2	横浜市港南区民文化センター指定管理者選定評価委員会開催経緯	
3	令和5年度横浜市港南区民文化センター指定管理者評価表	

I 指定管理者業務評価について

1 協定の確実な執行

- 指定管理者制度は行政と事業者が協定を締結し、事業者がその協定を確実に執行することが原則となる。協定の主要な要素は公の施設として行うべき「業務の基準」及び、公募段階において事業者が提案した「提案書」を確実に達成することである。
- この協定に定められる業務内容、求められるサービス水準を達成することによって、公の施設の管理運営者に課せられていた規制が緩和され、民間事業者等でも公共の使命を実施するための管理運営ができるようになったことの意義がある。
- 指定管理者制度は、公の施設において「行われるべきこと」と「その達成の確認」という2点が最も重要な点である。
- 指定期間を通じた確認とともに、年度ごとにこの「行われるべきこと」と「その達成の確認」を行うが、そのために制度は指定管理者に、年度事業計画（業務計画）と年度事業報告（業務報告）の作成を求めている。

2 執行確認としての評価

- 協定の達成を確認するために、指定管理期間の年度単位に確認するための4つの仕組みを設定している。
 - ① 行政によるモニタリング
指定管理者は月ごとに業務報告を行うとともに、行政として月次を基本に、施設の管理運営を観察し、指定管理者と協議を重ねて、行われるべきことが適切、確実に行われているかを把握する。
 - ② 指定管理者による自己評価
年度事業計画（業務計画）と年度事業報告に基づき、指定管理者自らが、「業務の基準」の達成と「提案書」の実現を検証することが説明責任としてある。
このために、年度目標を設定し、行政との協議によって両者共有の目標を設定する。これが目標であり、評価軸となる。

③ 行政による評価

基本的な業務の遂行についてはモニタリングにより確認を行うが、年度目標の達成について行政として評価を行う。

④ 外部委員による外部評価

自己評価および行政評価が適切に行われていることに対する評価の客観性の確保、専門的な知見や広範な情報ネットワークから得られる知見により評価をより適切なものとしていくために外部委員による外部評価を行う。

*今回、横浜市港南区民文化センター指定管理者選定評価委員会要綱に基づき、令和5年度の指定管理者の業務に関する評価を令和6年度に実施した。

3 評価結果の通知と公表

- 「2 執行確認としての評価」の仕組みを総括して報告書としてまとめ、指定管理者に通知するとともに、公表することを原則とする。
- 年度ごとの評価は残余の指定期間の改善のために行われるものであり、低い評価があったとしてもその改善を認めるものである。しかし、回復不可能な不作為や重大な未達成があり、低い評価がある場合には改善勧告を行うことがある。
- 改善勧告を行ってもその改善が図られない場合には、指定の取消しをも含む処分を行うことがある。

II 横浜市港南区民文化センターの概要

1 施設概要

- (1) 施設名称 横浜市港南区民文化センター 「ひまわりの郷」
- (2) 所在地 横浜市港南区上大岡西1-6-1
- (3) 施設規模 延べ床面積 2,834 m²
- (4) 内容 ホール(381席)、ギャラリー(124 m²)、音楽ルーム(43 m²)、練習室(2室)、会議室(定員36名)、楽屋、情報コーナー 他
- (5) 特徴

(ホール) 木の温もりが優しいシューボックス型のホールで、楽器の響きが隅々までクリアに美しく伝わります。客席がステージを取り囲むバルコニー式の構造が舞台と観客の一体感を高め、客席の反応を演奏者にダイレクトに伝えるホールとなっています。また、舞台の一部が可動式になっており、舞台の大きさを公演内容に合わせて変更することができます。室内楽、ピアノ独奏、コーラスから、オーケストラ、演劇、映画会まで、公演形態に応じた最適な舞台づくりが実現できます。

ア 客席・舞台の使用例

(ア) 標準形態

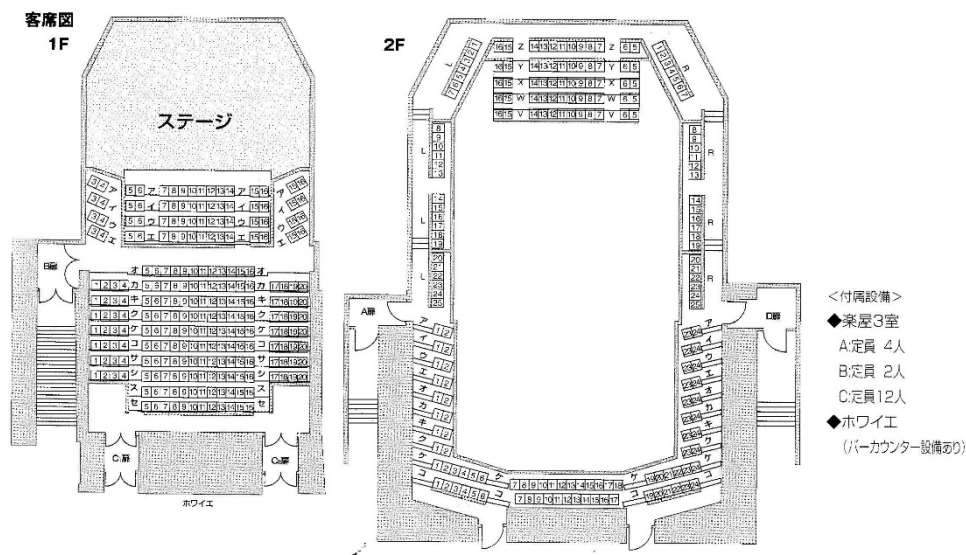
客席数：381席 舞台：間口12.8×奥行8.8m

(イ) オケストピット使用時

客席数：333席 舞台：間口12.8×奥行8.8m

(ロ) 客席最大時

客席数：429席 舞台：間口12.8×奥行4.9m



(ギャラリー)

美術・工芸作品の展示・発表に最適な空間です。可動展示壁により多彩な展示壁面を構成でき、大きな絵画や書道作品の展示に対応できるように、ピクチャーレールは2種類の高さを備えています。固定の壁面と可動展示壁を合わせ、展示可能な壁面は最大69 m²になります。

- (6) 開館 平成9年7月7日

2 施設の役割

横浜市港南区民文化センター（以下、「港南区民文化センター」という。）は、区民の文化振興の拠点として、区民に対しより開かれた身近な施設となることが期待されています。そのため運営にあたっては、地域での文化活動の現状や歴史及び地域特性を踏まえることが求められます。

<参考>横浜市区民文化センター条例

（設置）

第1条 地域に根差した個性ある文化の創造に寄与するため、横浜市に区民文化センター（以下「センター」という。）を設置する。

（事業）

第3条 センターは、次の事業を行う。

- （1）文化活動のための施設の提供に関すること。
- （2）文化活動に関する情報の提供に関すること。
- （3）文化活動に関する事業の相談に関すること。
- （4）文化事業の企画及び実施に関すること。
- （5）その他センターの設置の目的を達成するために必要な事業

3 これまでの運営状況

平成9年7月の開館以来、港南区における芸術文化活動の中核施設として、横浜市内の主要ターミナルの上大岡に立地する利点を活かしながら施設運営を行ってきました。市営地下鉄・京浜急行・バスターミナルなど交通機関の集積している利便性もあり、利用率も非常に高く、多くの文化団体及び文化活動者の活動拠点となっています。

また、区内の文化活動団体の支援や鑑賞事業、文化活動の奨励、学習やワークショップなどの育成事業を多彩に開催してきており、今後さらなる取組が期待されます。

4 施設の基本的役割（第4期指定管理者選定の公募時に示したもの）

港南区民文化センターの設置目的を達成するために、次に掲げる使命を設定しました。

指定管理者は、条例に規定する施設の設置目的とともに6つの使命を達成することを目標に、業務を行うこととします。

ア 【使命1】文化芸術活動の活動と体験の場となる

芸術文化に関する活動と体験の場を提供することで、市民の活動を支援する。

イ 【使命2】文化芸術活動を担う人材を育む

地域で文化活動に興味を持ち、活動を主導する人材を増やすことで、地域住民の文化芸術活動の可能性を広げる。

ウ 【使命3】文化・芸術の鑑賞の機会を提供する

音楽、演劇、ダンス、美術などの芸術文化に触れる機会を提供することで、感性豊かで多様な価値観を受け入れる区民文化の醸成に貢献する。

エ 【使命4】あらゆる人を文化活動に受け入れ、地域の力を結びつける

年齢、性別、国籍、言語、障害の有無、経済的状况等にかかわらず、港南区のあらゆる人を受け入れ、親しまれる施設となるため、社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）の視点も踏まえた利用者本位の運営を行う。また、地域の文化施設として求められる役割と専門性をふまえ、地域の様々な施設・団体・資源を結びつけるコーディネーターとして、地域コミュニティのベースとなる文化的コモンズの形成に寄与する。

オ 【使命5】 持続可能性を高める施設運営を行う

法令等に則った施設の保守・点検や日常的な予防的修繕などの維持管理を行い、安全で快適な施設を維持する。また、効率的な経費の執行や収入増の取組等により、安定的な施設運営を行う。

カ 【使命6】 新型コロナウイルス感染症の影響を想定し、施設運営を継続する

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化した場合には、徹底した感染防止対策の下で、安全に自主事業及び貸館業務を実施し、市民の文化活動の基盤として施設運営を継続する。

5 指定管理者

- (1) 事業者名 京急グループ共同企業体
〒233-0002
横浜市港南区上大岡西1丁目13番8号
代表団体 株式会社京急アドエンタープライズ
構成団体 株式会社クラフト
京急サービス株式会社
- (2) 指定期間 令和4年4月1日から令和9年3月31日まで

Ⅲ 評価

1 行政によるモニタリングを通じた業務執行の確認

【状況】

- 平成9年7月7日の開館後、「京急グループ共同企業体」が、第1期、第2期、第3期指定管理に引き続き、第4期指定管理者として令和4年4月から運営を担っている。
- 日常的な業務、施設の管理状況及び自主事業の実施状況等について、区職員が四半期に1回程度モニタリングを実施した。

【利用率】

- 施設運営については、各コマ単位及び合計共々高い利用率を実現している。

コマ単位	ホール	ギャラリー	音楽ルーム	会議室A	会議室B	練習室A	練習室B	合計
5年度実績	66%	74%	76%	70%	69%	87%	97%	80%
※(参考) 4年度実績	70%	66%	75%	70%	71%	78%	93%	77%

【自主事業】

- 自主事業については、区民ニーズを把握した上で、様々な事業を展開し、多くの事業で定員を満たしている。

事業区分	催物数	入場者数(人)	達成率(入場者/定員)
鑑賞型(主催・共催事業)	36	7,574	88.6%
体験・参加・学習等	13	1,812	80.5%
アウトリーチ事業	17	21,436	—
プラットフォーム事業	5	457	—

【人員体制】

- 年間を通して、計画どおりの人員配置がされ、必要人員は確保されていた。

【維持管理業務】

- 年間を通して、保守点検は適切に行われ、施設、設備は良好に管理されていた。

【収支結果】

○ 収入（単位：千円）

科目	5年度予算	5年度決算
指定管理料	148,043	180,043
利用料金収入	22,756	23,232
自主事業収入	10,634	10,273
その他収入	1,991	2,212
合計	183,424	215,760

○ 支出（単位：千円）

科目	5年度予算	5年度決算
人件費	70,131	70,163
事務費	6,772	37,115
事業費	12,000	10,562
管理費	83,778	81,908
事務経費	7,512	9,211
合計	180,193	208,959

○ 収入は、スタンウェイピアノ購入のための指定管理料の増と利用料金収入の増により、予算に比して32,336千円の増となった。

支出は、スタンウェイピアノ購入による事務費等が予算に比して増となっている一方、事業費、管理費は減となり、全体として予算に比して28,766千円の増となった。この結果、収支は+6,801千円となった。

【評価】

- 他の施設との連携を強化することで、文化芸術活動の場と体験の機会を創出することができている。
- 利用者アンケート等を通して課題を把握したうえで、新たな自主事業を実施し、施設の認知度向上につなげることができている。
- 次世代育成・若手アーティスト育成等に寄与する事業について、着実に実施事業数を増やすことができている。
- 運営開始から26年が経過し、設備等の経年劣化が進む中で、区は監視カメラシステムの更新を実施し、指定管理者は舞台照明設備無停電電源交換他を実施した。
- 指定管理業務全般を通じて、業務・サービス等について区が求める標準的な水準を満たしていることが確認された。今後は、一層、文化芸術の拠点として地域に密着した施設運営が行われることを期待する。

2 評価（自己評価、行政評価、外部評価）

- 指定管理者における事業計画（業務計画）及び事業報告（業務報告）を基礎として、次の基準に基づく評価を行った。
- 指定管理者の自己評価、行政評価、外部評価については、別紙のとおり一表に取りまとめた。

【評価の基準】

- 「A」：目標を上回る成果を達成した
- 「B」：目標どおりの成果を達成した（標準）
- 「C」：目標を一部達成した
- 「D」：目標を全く達成していない

「B」を標準とし、成果が目標どおり達成できた場合を「B」とする。

「A」については目標以上の成果を挙げた場合とする。

「C」「D」については目標以下の成果に留まった場合の評価で、一部達成した場合は「C」、全く達成しなかった場合は「D」とする。

3 横浜市港南区民文化センター指定管理者選定評価委員会による総評

評価項目	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	評価委員会
【使命1】 文化芸術の活動と体験の場となる	A	B	B	B	B	B
【使命2】 文化芸術活動を担う人材を育む	B	B	B	B	B	B
【使命3】 文化芸術の鑑賞の機会を提供する	A	B	A	A	A	A
【使命4】 幅広い人を文化活動に受け入れ、 地域の力を結びつける	B	B	B	B	B	B
【使命5】 持続可能性を高める施設運営を行う	B	B	B	B	B	B
【使命6】 新型コロナウイルス感染症の影響を 想定し、施設運営を継続する	B	B	B	B	B	B

利用料金の考え方と具体的な料金設定、支払方法や割引料金・減免等の運用方法の考え	B	B	B	B	B	B
指定管理料のみに依存しない収入構造、経費削減等効率的運営の努力	B	B	B	B	C	B
5年間の収支及び収支バランス	B	B	B	B	B	B
施設全体の運営に対するアイデア・ノウハウの一層の活用	B	B	B	B	B	B
市の重要政策課題への対応	B	B	B	B	B	B
総合	B	B	B	B	B	B

総 評

・文化芸術の拠点として、質の高い芸術の提供、若年層を中心に文化芸術を担う人材の育成、アウトリーチにより文化芸術への親しみの増進など、様々に工夫を凝らして運営していることを評価する。区民が誇りに思える施設として発展していくことを期待する。

・課題であった若年層の利用拡大については、様々な企画を実施することにより、館の認知度向上や参加促進など一定の成果が上げられた。

・アウトリーチ事業については、地域の施設・団体との連携により、目標を上回る事業数を実施することができた。

・コロナ禍にあっても形態変更などの工夫を凝らしながら、目標達成に向けて各事業を推進されたことは評価できる。

・文化祭のような四季にあわせたイベントは、アクセントになり、区民に区民文化センターが文化芸術の拠点であることを強く発信することができる。あらかじめ年間スケジュールを示すことでより、区民の関心をひくことができるのではないかな。

・上大岡駅に直結している利便性を生かして区内だけでなく、市外からの誘客にも期待したい。今後は、音楽のみならずダンス、ギャラリーの利用についても充実させてほしい。

・高齢者の利用者が今後増えると予想される中で、高齢者の方が行くことをあきらめず、さらに行きたくなるような施設を目指して運営してほしい。

・ホールの音響整備がよい施設なので、その利点を生かし、クラシックコンサートホールとして活用の幅を広げてほしい。

・自己評価において、課題が残った案件については、原因を分析し目標を達成できる事業を展開してほしい。

・需要が少なかった取組については、その原因を分析して、利用者の需要にあった取組への改善を期待する。

・経費節減の取組も重要だが、収入増への取組みも重要なので、利用者のニーズを把握するとともに新たな利用者を掘り起こす取組を期待する。

IV 資料

1 横浜市港南区民文化センター指定管理者選定評価委員会委員名簿（五十音順）

氏名	所属・経歴等
太下 義之	同志社大学経済学部経済学科 教授
小川 義彦	港南区「街の先生の会」
佐藤 響子	横浜市立大学国際教養学部 教授
菅原 千恵	港南区ひまわり管弦楽団事務局 監査
宮田 順子	東京税理士会横浜南支部 税理士

2 横浜市港南区民文化センター指定管理者選定評価委員会開催経緯

<p>■第1回委員会</p>	<p>令和6年10月30日（水）10:00～11:30</p> <p>会場：港南区民文化センター 会議室</p> <p>議題：・横浜市港南区民文化センター指定管理者選定評価委員会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価対象施設の概要について ・評価の方法及び手順について ・自己評価及び行政評価について <p>施設視察及びヒアリング</p>
<p>■第2回委員会</p>	<p>令和7年1月27日（月）13:30～15:30</p> <p>会場：港南区役所 601 会議室</p> <p>議題：横浜市港南区民文化センター指定管理者に対する評価</p>

第4期横浜市港南区民文化センター指定管理者業務評価表

◆事業計画
施設の使命を達成するための取組

【使命1】文化芸術の活動と体験の場となる (提案書様式16)
文化芸術に関する活動と体験の場を提供することで、市民の活動を支援する。

目標		具体的な実施状況・実績	自己評価	行政評価	外部評価	評価委員会 (コメント)
評価項目	目標水準					
気軽に参加できる文化芸術体験の場と機会を提供	新たに情報コーナーを核としたパブリックスペースも活用し、週末を中心に文化芸術体験コンテンツを提供する。	<p>○情報コーナーの機能を残しつつ、コーナーの多目的化を図りました。</p> <p>○文化芸術関連コンテンツの提供については、令和4年度(以下「R4年度」という):読み聞かせ(1)、紙芝居(2)、令和5年度(以下「R5年度」という):読み聞かせ(3)、電子ピアノ演奏会(2)、紙芝居(2)で参加者は合計226名でした(括弧内数字は開催回数)。なお、読み聞かせは、港南図書館、紙芝居は、横浜紙芝居普及会の協力を得て、実施しました。</p> <p>○コーナーに設置した60型モニターを用い、ギャラリー展示の写真、市政紹介などを行いました。</p> <p>○コーナーには、地域の方々が制作した作品を主に展示する展示スペース、展示ボックスも設置し、活用してもらうことができました。</p> <p>○R5年度からコーナーにキッズスペース(マット敷き)を設置、港南図書館から寄贈を受けた絵本を配置しました。</p>	A			<p>・子どもや高齢者、障害者など幅広いターゲットを対象としたソーシャルインクルーシブな事業展開は評価できる。障害者の作品を認知症の高齢者に鑑賞してもらったプログラムは、認知症の進行予防にも効果があるとされているので、今後の取組として検討いただきたい。</p> <p>・小学校や中学校と連携した事業は良い取組である。特に不登校状態にある児童や生徒が通っているハートフルを対象とした文化事業は、全国的にみても珍しい取組である。</p> <p>・乳幼児向けの絵本コーナーの新設など、パブリックスペースの新たな活用について積極的に進めているが、まだ利用者に十分に認知されていない可能性がある。学校の部活動の作品展示を行うなど、今後の展開に期待したい。</p>
バリエーション豊かなワークショップの開催	音響のよいホールがアピールできる音楽に関するワークショップと、幅広い嗜好の人たちへアプローチできる文化芸術活動の参加型コンテンツを「45シアター」の新規メニューに取り入れるとともに、情報コーナーでのワークショップを提供する。	<p>○R4、5年度45シアターにて開催している器楽ワークショップは津軽三味線・ギター・フルートを実施、11月文化祭では音響の良いホールにて成果発表会を開催</p> <p>○R4、5年度<音楽>手作り楽器ワークショップ(33名/27名参加)</p> <p>○R4年度<ふるさと港南>港南区笹下城の歴史講座(30名参加)、街歩きフォトセッション(105名参加)</p> <p>○R4、5年度<伝統芸能>おもしろ落語会(76名/70名参加)</p> <p>○R4、5年度<大人向けワークショップ>フラワーアレンジメント(10名/20名参加)、似顔絵描き(R5年度)、シャドウボックス(R5年度)など体験事業を開催しました。</p>	B			
区内の小・中学校や特別支援学校を巻き込んだ体験型事業の展開	学校の生徒を対象とした施設内、舞台機構の見学に加え、技術スタッフによる舞台演出のデモンストレーションなどを行い、舞台芸術の裏側に対する興味へと繋げる。	<p>○R4年度、ハートフルルーム(南台小)の生徒(12名参加)舞台機構の見学会を行いました。</p> <p>○R5年度、港南区小学校音楽教育研究会、校長会の協力を得て、参加型のコンサートを開催できました。「演奏:横浜市大卒業生ジャズバンド:Second Wind Jazz Orchestra」参加者は205名でした。</p>	A	B	B	

第4期横浜市港南区民文化センター指定管理者業務評価表

<p>ソーシャルインクルージョンの視点に立ち様々なターゲットに向けた体験型企画の開催</p>	<p>子ども・子育てファミリーや小中学生、障害者や高齢者といった様々なターゲットに向けたプログラムを開催し、ソーシャルインクルージョンを推進する。</p>	<p>○子供向け事業「こどもミーツ♥オーケストラ」R4年度2回、R5年度2回実施しました。</p> <p>○市教育委員会「学校教育プラットフォーム事業」R4年度5回、R5年度5回実施しました。</p> <p>○障害を持つ方々の参加機会提供事業として、ラポール上大岡との共催による作品展をR4年度、R5年度1回ずつ計2回実施しました。</p> <p>○手話ミュージカルをR4年度2回/日実施しました。</p> <p>○障害者向けアウトリーチ事業として、R4年度ハートフル学級へのアウトリーチ事業(創作楽器の製作、演奏会、鑑賞会)を2日に分けて実施しました。</p> <p>○高齢者向け事業としては、R4年度、老人福祉センター、地区センターなどで三味線演奏会1回、ピアノ&バイオリン演奏会2回、フルート演奏会1回実施しました。R5年度、老人ホーム、地区センター等で三味線演奏会3回、ピアノ&バイオリン演奏会1回、クラリネット&チェロ演奏会1回、和太鼓演奏会1回、琴演奏会1回開催、いずれも好評を博しました。</p> <p>○R4年度、手話講座(2回/日)を実施しました。</p>	<p>A</p>			
<p>「ひまわりファミリーミュージカル」の継続開催</p>	<p>気軽に参加することが難しい、ミュージカルのステージに立つことができる市民参加型事業の「ひまわりファミリーミュージカル」を、横浜シティオペラと協働で開催する。</p>	<p>○市民参加の「ひまわりファミリーミュージカル」が、R4年10回開催の節目を迎え、新たなワークショップ参加者の裾野を広げ、より多くの方々に体験していただくために、日本オペラ協会、藤原歌劇団の協力のもと、昭和音楽大学の山館客員教授を講師とした「ひまわりの郷オペラ合唱団」を結成し、練習を開始、同年度、第一回の公演会を開催しました。オペラ団員として参加した方は30名、公演入場者は、174名でした。</p>	<p>A</p>			

第4期横浜市港南区民文化センター指定管理者業務評価表

【指定管理者が提案する指標】

指標	目標水準	達成状況	自己評価	行政評価	外部評価	評価委員会 (コメント)
情報コーナー活用事業数と参加者数	5年目時点で、年9回の開催、参加者数 180人の達成	<u>情報コーナー活用</u> R4年度 開催事業数:3回(紙芝居2回、読み聞かせ1回) R5年度 開催事業数:7回(紙芝居2回、ピアノ演奏2回、読み聞かせ3回) 参加者は、合計226名でした。	B			・街の先生の会などの地域に根差した団体と連携した事業展開は評価できる。特定の方の参加にとどまらず、より幅広い方々にワークショップ等に参加いただくために、連携できる団体が増えていくことが望ましい。また、ホールがある施設という特性をいかしたワークショップの企画を期待したい。
新ジャンルの体験型ワークショップ開催	5年間で5つのテーマに沿った事業を新たに実施する。 ①音楽 ②ふるさと港南 ③生活密着 ④伝統芸能 ⑤大人向けワークショップ	<u>新ジャンル体験型ワークショップ</u> 5つのテーマ(①-⑤)について、以下の通り実施しました。 ①R4、5年度 器楽ワークショップを開催しました(三味線、フルート、ギター)、また、手作り楽器作成ワークショップを開催しました。 ②R4年度 (財)横浜市ふるさと歴史財団の協力で「笹下城」をテーマに歴史講座を開催しました。また、街歩きフォト講座を開催しました。 ③R4年度 街のアドバイザーの協力を得て、「磁石工作教室」 R5年度 街の先生の会の協力を得て、「空き箱工作」のワークショップを開催しました。 ④R4、5年度 おもしろ落語会を開催しました。 ⑤R4、5年度 「街の先生の会」「港南文化交流協会」の協力を得て美術展、フラワーアレンジメントやシャドウボックスなどのワークショップ開催しました。併せて、情報コーナーでの成果発表にも参加いただいています。	B	B	B	

【業務の基準で設定している指標】

指標	2年目の目標水準	達成状況	自己評価	行政評価	外部評価	評価委員会 (コメント)
定量指標①:貸館利用率(ホール、ギャラリー)	ホール利用率:82.5% ギャラリー利用率:89.5%	ホール利用率:84% ギャラリー利用率:74%	B			・目標としていた水準をクリアできていることは評価できる。また、課題となっていた若年層のステークホルダーの掘り起しについても積極的に取り組んだ。今後はさらに若年層向けにポップスやアニメ関連の事業の企画を期待したい。
定量指標②:来場及びWEB参加等他の手法を用いた総参加者数	総参加者数:109,300人	総参加者数:114,325人	A			
定性指標①:利用者の状況についての現状把握	2年間の自主事業参加者・貸館利用団体の利用状況、利用者属性を把握し、事業運営に活かされている。	自主事業者参加者へのアンケート、貸し館利用者へのアンケート(特定月:2月)、利用者インタビューによる利用者状況の把握を行うとともに属性を把握し、事業に反映しました。アンケートからは、当館利用者は、高齢者に偏っており、若年層ほど館の認知度も低下することがわかりました。 これをもとに、自主事業について、認知度向上に向け主に若年層をターゲットにした次の事業を開催しました。 ①R5年度、お笑いライブ:201名の参加があり、うち、95%が初来館者でした。 ②R5年度、放課後ふれ愛鑑賞会には、区内の小学校の生徒が集まりました。センター自体の認知度上昇に活かされたと考えています。(参加者 205名)	A	B	B	

第4期横浜市港南区民文化センター指定管理者業務評価表

【使命2】文化芸術活動を担う人材を育む（様式17）
 地域で文化活動に興味を持ち、活動を主導する人材を増やすことで、地域住民の文化芸術活動の可能性を広げる。

目標		具体的な実施状況・実績	自己評価	行政評価	外部評価	評価委員会 (コメント)
評価項目	目標水準					
サマーフェスタにおけるボランティアスタッフの募集と定着化への試み	サマーフェスタで募集するボランティアが定着している。カルチャースタッフOB・OGが登録する「ひまわり友の会(仮称)」がボランティアスタッフとしての定着化している。	テンポラリーなボランティアに限定せず、ひまわりの郷で行う種々コンサートやワークショップへのボランティアとして、募集することにしました。R4年度6名、R5年度9名の応募があり、ボランティアとして会場整理やチケットもぎりなどに参加いただきました。 また、当館に従事したスタッフOBを友の会会員に位置づけて、様々な事業に尽力いただいています。(会員現在3名)	B			・学校の部活やクラブ活動と連携したひまわりミュージックフェスタは、小中学生が本格的な音楽ホールで演奏できる貴重な機会を提供している。若年層が施設に関心をもつきっかけにもなるため、さらにこうした取組に力を入れてほしい。 ・音楽ルームの無償利用については良いチャレンジなので、ダンスチームの育成を視野に入れた取組などを検討いただき、利用率の向上につなげてほしい。
KSDC (KOUNAN STREET DANCE CONTEST)の充実	音楽ルームの予約の入っていない平日の2コマを当日の15時に抽選のうえ、無償で使用できる試みをスタートし、KSDCへの参加モチベーションを高めるとともに、音楽ルームの若い層の利用者促進にもつながっている。	○音楽ルームの無償利用のご案内はしましたが、応募団体がいませんでした。そこで、R5年度より、ギャラリーから中庭に向けてミラーを設置しました。 ○本館が長い間実施している「KSDC:こうなん ストリートダンスコンテスト」は、R4年、5年度は計画通り、高校生に絞り実施しました。参加団体はR4年度 8チーム、R5年度 10チームでした。	B			
テクニカルワークショップ「仲間と一緒にコンサートを開こう！」	区内の高校生バンドがコンサートを企画から演出までを体験するワークショップを開催し、その後も仲間たちと自主的にイベントを開催する。	R5年度 高校生ロックフェス&テクニカルワークショップ「HIMA ROCK FES」を開催。市内高校生を公募し、以下のように3日に分けてワークショップを実施しました。 1日目 座学 (7名参加) 2日目 仕込み(音響、照明、舞台設営など) (7名参加) 3日目 バンド演奏(4チーム参加)	B	B	B	
区内中学校の吹奏楽部を応援	区内中学校吹奏楽部の大会出場を支援し、大会終了後の発表の場も提供し、区民を挙げて応援できる存在へと引き上げ、さらに完成度の高い音楽・演奏を目指していただくとともに、彼らが中心となって、卒業後も色々な場面で本センターを活用していただいている。	○R5年度 「ひまわりミュージックフェスタ2024」を開催しました。前年度まで港南区主催で公会堂にて開催されていた事業でしたが、港南区、京急百貨店共催、当館協力で「小学生による合唱」「中学生吹奏楽部演奏発表会」を開催しました。また、昭和音楽大学大学院生による講習会も併せて実施しました。 ○R5年度 区内中学校ではありませんが、サレジオ学院&横浜女学院吹奏楽団による「New Year Concert」を(株)神奈川トヨタ自動車の協賛を得て開催しました。	B			

第4期横浜市港南区民文化センター指定管理者業務評価表

【使命2】文化芸術活動を担う人材を育む（様式17）
 地域で文化活動に興味を持ち、活動を主導する人材を増やすことで、地域住民の文化芸術活動の可能性を広げる。

【提案者が提案する指標】

指標	目標水準		自己評価	行政評価	外部評価	評価委員会 (コメント)
中高校生を対象とした事業（KSDC、テクニカルワークショップ、中学校吹奏楽部応援）を通して、その親たちのグループや応援者同士の音楽やダンスを通じた『仲間づくり』をサポートする。	中高校生を対象とした事業から新たに生まれた団体との事業を5年間で3回開催している。	KSDCから生まれたものとして、R4、5年度「KSDC実行委員会」が高校生主体に発足され、自らが企画する「高校生によるコンテスト」を開催しました。館は支援の立場で応援しました。	B	B	B	・高校生が主体となって活動する機会を創出した事業は良い取組なので、今後こうした取組が定着していくことを期待したい。

【業務の基準で設定している指標】

指標	2年目の目標水準	達成状況	自己評価	行政評価	外部評価	評価委員会 (コメント)
定量指標①:次世代育成・若手アーティスト育成等に寄与する事業数	4事業	次世代育成・若手アーティスト育成等に寄与する事業数:5件 ①R4年、5年度 KSDC(ごうなん ストリート ダンス コンテスト) ②R5年度 サレジオ学院・横浜女学院吹奏楽団による「コンサート」 ③R5年度 ひまわりミュージックフェスタ2024 ④R5年度 HIMA ROCK FES(高校生ロックバンド) ⑤R5年度 小学生のための放課後ふれ愛鑑賞会	A	B	B	・文化芸術活動の担い手を育成することは容易ではないが、ボランティアを獲得するなど、目標達成に向けて着実に取り組むことができている。 ・若年層を取り込むためには、個人情報の取扱いに十分に留意したうえで、SNSを積極的に活用する必要がある。また、アンケートの結果からもわかるようにHPも重要な広報ツールなので、今後の事業運営に生かすことを期待したい。
定量指標②:施設の事業に協力する地域住民(ボランティア等)の人数	19名	施設の事業に協力する地域住民(ボランティア等)の人数:15名(登録)、OB登録 3名	B			
定性指標①:子どもたちや学校の定性分析	2年間で蓄積した参加者の生の声と参加者数等の分析結果が、その後の事業運営に活かされている。	インタビュー調査を実施。調査結果をもと、若者向けのイベント的な事業を開催することを決定。R5年度、これまで挙行したことがなかった「お笑いライブ:最重要お出かけ案件」を開催しました。	B			
定性指標②:新たに参加した人の属性分析	2年間で蓄積した参加者の生の声と参加者数等の分析結果が、その後の事業運営に活かされている。	新規参加者のアンケート(初回利用と回答)を集計しました。参加理由、情報経路の把握ができました。HPの広報の重要性を把握しました。	B			

第4期横浜市港南区民文化センター指定管理者業務評価表

【使命3】文化芸術の鑑賞の機会を提供する（様式18）
音楽、演劇ダンス美術などの文化芸術に触れる機会を提供することで感性豊かで多様な価値観を受け入れる区民文化の醸成に貢献する。

目標		具体的な実施状況・実績	自己評価	行政評価	外部評価	評価委員会 (コメント)
評価項目	目標水準					
クラシック音楽を軸とした鑑賞型自主事業の展開	<p>新たに敷居を低くした入門的なクラシック音楽の解説トークと演奏が楽しめる公演を導入し、クラシックに興味や親しみを持ってもらえる人の裾野を広げる。</p> <p>事前情報、事後情報の発信を充実させるなどの取組を強化し、興味を持ってもらえる人の絶対数を増やし、新規動員へつなげる。</p>	<p>○クラシック入門講座として、昭和音楽大学及びアーツブレッドの協力のもと、R4年度:「スペインの冒険」、R5年度:「ベートーベンの若き時代に迫る」と題し、三谷教授、高橋氏による講演と演奏会を開催しました。参加者は、各105名、205名でした。</p> <p>○事前のポスターやチラシ、広報ヨコハマ、当館の独自の通信用パンフ「ひまわり通信」などによるPRは、これまで通り行っています。更に事後情報のHP上の発信に努めました。</p>	A			<p>・クラシック入門講座については、クラシック音楽の敷居を下げることで、来館者の裾野の拡大につなげることができた。今後はクラシックだけではなく、アコースティックのフォークやロックなど、様々なジャンルの音楽に触れることができる企画を期待したい。</p> <p>・通りすがりの人をターゲットにした「デリバリーLive」や、主にお子さんをターゲットにした「こどもミーツ♥オーケストラ」など、様々な客層に対して芸術に触れる機会を提供することができている。</p> <p>・落語やお笑いライブなど、型に捉われない企画についても、良い取組なので今後も継続していただきたい。</p>
様々なターゲットに向けた芸術鑑賞機会の提供	<p>駅・商業施設利用者へ向けたミニコンサート(多くの人たちに発信するオープンアウトリーチ事業)や子ども・子育てファミリー、小中学生、障害者など様々なターゲットに向けて芸術鑑賞機会を提供する。</p>	<p>○上大岡という市民が多く行き交う街での気軽く音楽発信をテーマに「デリバリーLive」を行いました。</p> <p>R4年度 「小川紀美代バンドネオン演奏会」:参加者50名 R5年度 「フルート&ピアノ演奏会」:参加者94名 R5年度 「小室哲朗チェロ演奏会」:参加者100名 R5年度 「ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロコンサート」:参加者110名 何れも、上大岡ウィング2Fのパブリックスペースにおいて実施しました。</p> <p>○主に子供をターゲットにした事業としてR4年度、5年度:「こどもミーツ♥オーケストラ」、「ウエルカムキッズコンサート」を実施しました。実施回数、参加者数は ミーツがR4年度:2回585名、R5年度:2回488名でした。キッズコンサートがR4年度:6回1032名、R5年度:5回1099名でした。</p> <p>○障害を持つ方へのご来館にも備え、的確な誘導に心がけると共に、ホールには車椅子対応のスペースを確保してあります。不測の事態における避難時の階段下降用の車椅子「イーバックチェア」を設置しました(設置年度はR2年度)。</p>	A	A	A	
大衆文化にフォーカスしたアート鑑賞事業の導入	<p>多くの人に親しまれる大衆文化や、若い年代にアプローチするストリートカルチャーなどにもフォーカスした事業を年に1回程度実施する。</p>	<p>○主に若年層をターゲットにした「お笑いライブ」をR5年度実施、漫才コンビ真空ジェシカ等の出演もあり、201名の参加がありました。</p> <p>○ソウル歌手アレサフランクリンのコンサート映画をR5年度実施、215名の参加がありました。</p> <p>○また、新たに横浜美術館との連携により、R4年度、写真講座「昭和史に残る女性カメラマン」と題し、講座を行うことができました。参加者は15名でした。</p>	A			
新規性の感じられる公演として専門館のコンテンツを導入	<p>横浜にぎわい座プロデュースによる大衆芸能の専門館としての公演を自主事業として展開する。 (公)横浜市芸術文化振興財団の協力を得て、上質なクラシックコンサートのラインナップを拡充する。</p>	<p>○横浜にぎわい座の協力を得て、R4年度落語会(ひまわり落語会)を夏編(三遊亭兼好ら)、秋編(桃月庵白酒ら)とし2回開催しました。夏編で107名、秋編で116名の参加がありました。</p> <p>○(公)横浜市芸術文化振興財団の協力を得て、R4年度横浜バロック室内合奏団定期演奏会「バロック音楽の調べ」を4回開催、計760名の参加がありました。</p>	B			

第4期横浜市港南区民文化センター指定管理者業務評価表

【指定管理者が提案した指標】

指標	目標水準	達成状況	自己評価	行政評価	外部評価	評価委員会 (コメント)
初来館客のシェア向上	クラシック入門講座(仮)や大衆文化鑑賞事業の開催における初来館客のシェアを向上する。	○これまでに実施していなかったクラシック入門講座(コンサート)やお笑いライブ、落語会などを開催し、当館初来館の方も増えました。 ○アンケートから、初来館者率は、キッズ系の公演では、約3割(1~2回:2割、3回以上:3割、定期的:1割)でした。一般向け公演では、約4割(1~2回:2割、3回以上:3割、定期的1割)という結果でした。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・クラシックだけでなく、落語やお笑いライブなど、多岐にわたる事業を展開することで、順調に目標を達成することができている。引き続き、プロアマ問わず音響の良いホールを利用いただける企画を期待したい。 ・オープンアウトリーチは、芸術にふれることができる第一歩であり重要な事業であるため、今後より一層拡大していただきたい。
バラエティに富んだ事業の実施	専門性が高く、バラエティに富んだ専門館のコンテンツを取り入れた事業を5年間継続開催する。	○当館ホールの「音響の良さ」という価値を最大限活かし、多くの市民、区民にハイクオリティーなクラシック音楽を継続実施しました。 ○45シアター(音楽ルームでのワークショップ、ミニコンサート)、ウェルカムキッズコンサート、オアシスコンサート、ウィークデーシリーズ等実施しました。	B			
オープンアウトリーチ事業の実施	ゆめおおおか施設内を中心に行う、多くの人たちへ向けたオープンアウトリーチ事業、「ひまわりLIVE デリバリー(仮)」を5年間継続的に開催する。	R4年度「バンドネオン演奏」、R5年度「フルート&ピアノミニコンサート」、「チェロコンサート」「ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロコンサート」を開始しました。参加者は、両年度とも用意した席(パイプ椅子)30席が満席になり、立ち見のお客様が出るほどでした。	A			

第4期横浜市港南区民文化センター指定管理者業務評価表

【業務の基準で設定している指標】

指標	2年目の目標水準	達成状況	自己評価	行政評価	外部評価	評価委員会 (コメント)
定量指標①:鑑賞型事業のメニューのジャンル数及び実施回数	ジャンル数:5 実施回数:27	鑑賞型事業のメニューのジャンル数及び実施回数 ○R4年度:11ジャンル、28回実施 ・プロの出演者による本格的な音楽を奏でるオアシスコンサート10回、お子さまから楽しめるウェルカムキッズ6回、平日昼間に開催するウィークデーコンサート、オペラやピアノ曲を題材にした映画の上映会(1回はリサイタルも開催)、オペラの名演やお子さまが指揮者になりきる子どもミーツオーケストラ等、多種多様な鑑賞型事28事業を開催しました。 ○R5年度:15ジャンル、36回実施 ・オアシスコンサート11回、ウェルカムキッズ6回、ウィークデーコンサート、オペラやソウルを題材にした映画の上映会、お子さまが指揮者になりきる子どもミーツオーケストラ、お笑いライブ、ハロウィンミュージカル、小学生ふれあい鑑賞会等多種多様な鑑賞型事業36事業を開催しました。	A			<p>・目標として設定していた指標を順調に達成できていることに加え、利用者アンケートにおいても高い満足度を得ることができており、量だけでなく質の面でも利用者から評価をいただくことができています。</p> <p>・アウトリーチ事業については、区内の区民利用施設と連携することで、効果的に事業を実施することができています。今後は施設だけでなく、自治会町内会等と連携することで、ひまわりの郷がより地域に身近な施設として認知されることを期待したい。</p> <p>・ストリートピアノについては良い取組であるが、実際にピアノを弾いた方が少なかったようなので、認知度の向上に取り組む必要がある。また、電子ピアノではなく、従来のピアノの設置を検討するなどの見直しを期待したい。</p>
定量指標②:体験型事業の事業数及び実施回数	事業数:10 実施回数:13	体験型事業の事業数及び実施回数 ○R4年度:8ジャンル、24回実施 ・オリジナルの楽器を創って演奏する教室や、3種の器楽ワークショップ、墨彩画講座、街の先生の会の協力による大人の創作教室等で全24事業を開催しました。 ・新型コロナウイルスの影響で開催が危ぶまれていたKSDCについては、直前の規制緩和で実行委員会のメンバー4校以外にも募集を行うことができ、ステージでのダンスパフォーマンスを行い、プロのダンサーによる講評を受ける公演を実施しました。 ○R5年度:13ジャンル、23回実施 ・オリジナルの楽器を創作して演奏する教室や、3種の器楽ワークショップ、墨彩画講座、街の先生の会の協力による大人の創作教室、高校生ロックコンサート&テクニカルワークショップ、本来のコンテスト形式にもどして実施したKSDC等全23事業を開催しました。	A			
定量指標③:アウトリーチ事業の実施回数	実施回数:15	アウトリーチ事業の実施回数 ○R4年度:10回実施 ・地区センター、コミュニティハウスの他、オープンアウトリーチとしてウイング上大岡のガーデンコートで港南区民活動支援センターとの共催でバンドネオンコンサートを開催しました。またストリートピアノを設置し、少人数ながらお客様に弾いていただきました。 その他技術協力で地区センターにて音響設備の運営支援を行いました。 ○R5年度:17回実施 ・地区センター、コミュニティハウス、特別養護老人ホーム、特別支援学校の他オープンアウトリーチとしてウイング上大岡のガーデンコートでフルート&ピアノコンサートを開催しました。また当館のPRを兼ねたチェロコンサート、ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロコンサートを開催しました。また、技術協力として、丸山台いちょう坂商店街、丸山大ホコテンに音響設備の運営支援を行いました。	A	A	A	
定性指標①:来場者(参加者)満足度	2年にわたる顧客満足度調査の分析結果を踏まえ、自主事業の企画を構築し、施設運営管理に活かす努力をしている。	○自主事業参加者の事業終了後のアンケート調査を行いました。結果を持って事業の満足度は、大変満足、満足が全体の90%を超える状況でした。逆にやや不満、不満の事業については、どこに問題があったかを検証しました。 ○2月を特定月として、施設利用者への施設利用上の満足度を把握するためのアンケートを実施しました。	B			
定性指標②:参加者の定性分析	2年分の利用者属性把握をもとに、利用世代のアンバランス解消への事業展開への努力をしている。	○自主事業参加者に対するアンケートにおいて、利用者の属性を把握しました。やはり高齢者の利用が多い状況が継続しています。	B			

第4期横浜市港南区民文化センター指定管理者業務評価表

【使命4】幅広い人を文化活動に受け入れ、地域の力を結びつける（様式19）
 年齢、性別、国籍、言語、障害の有無、経済的状況等にかかわらず、港南区の幅広い人を受け入れ、親しまれる施設となるため、社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）の視点も踏まえた利用者本位の運営を行う。また、地域の文化施設として求められる役割と専門性をふまえ、地域コミュニティのベースとなる文化的commonsの形成に寄与する。

目標		具体的な実施状況・実績	自己評価	行政評価	外部評価	評価委員会 (コメント)
評価項目	目標水準					
文化的commons形成のためのプラットフォームの再整備	区内外文化・芸術系団体・アーティスト情報をアーカイブ化し、ホームページで閲覧できるよう整備する。 区民オーケストラ「ひまわり管弦楽団」を積極的にサポートを行う。	○ひまわりの郷のパートナーとしての企業団体とのコミュニケーションを深めることを目的にして、関係構築を進めてきました。 ○当館が区内の「文化芸術の発信基地」となることを使命として掲げ、様々な関連企業団体との文化芸術の振興についての協力依頼、話し合いを進めることができました。 ○利用者の美術作品、工作作品の展示、アーティストの情報を集約させたアーティストバンクを立ち上げ、過去の公演内容などもわかるようにしました。 ○区民オーケストラ「ひまわり管弦楽団」へのサポートとして、優先予約、演奏会の告知サポートを進めました。(演奏会：R4年 2回、R5年度 2回実施) ○文化的commons形成のためのプラットフォームの強化に結びつけました。	B			・「ひまわり文化祭」について今後も継続していく中で、公演やワークショップの回数を増やしてほしい。ソーシャルインクルージョンは全ての施設が取り組むべきテーマではあるが、地域における文化芸術の拠点である「ひまわりの郷」が他施設の手本となることを期待したい。 ・地域のニーズをしっかりと把握するためには、地域コーディネーターは欠かせない存在であり、専任スタッフを配置したことは評価できる。今後はさらに地域コーディネーターが中心となって、地域との連携を深めてほしい。 ・避難訓練コンサートはスタッフだけでなく、出演者や来場者の防災意識の向上につながる重要な取組のため、毎年実施していただきたい。
“地域と館を結ぶ”専任地域コーディネーターを配置	地域と文化芸術をつなげていくための地域コーディネーターとして、新たに専任スタッフを配置する。 また、地元の企業を訪問し、職業体験や、事業協力の要請等も今後行っていくことを検討する。	○区民文化センターにおける地域コーディネーターの役割を職員全員で共有することができました。 ○地域と館を結びつけ、広く区域全体に文化芸術を広めてゆく専任の職員を配置しました。また、副館長も地域コーディネータを兼任させ、ダブル配置としました ○地域の企業や団体へ訪問し、地域のニーズの把握に努めました。地域のニーズの把握、協働事業の企画も進みました。	A			
あらゆる人に対する全館での受け入れ体制の整備	各グループ施設のツールを有効活用し、あらゆる利用者の方々と円滑なコミュニケーションが図れる体制を整える。	○差別のない人権に配慮した公平公正な対応を図っています。 ○聴覚障害者の案内に支障ないように受付には、「コミュニケーション絵本」を備えました。 ○研修時などに使用するため、グループ社印向けに制作された手話入門VTRも備えました。	B	B	B	
ソーシャルインクルージョンの視点に立った夏休みのオープンデー「ひまわりサマーフェスタ」	ソーシャルインクルージョンの視点に立った、「ひまわりサマーフェスタ」を年に一度のオープンデーとして継続実施する。	○これまで実施してきた「ひまわりサマーフェスティバル」については、以下の理由からR4年からスタートした「ひまわり文化祭(月間事業)」に吸収、変更しました。 ①猛暑、炎天下での開催は熱中症の危険性 ②縁日での食事提供による食中毒の危険性 ③混雑、密集による新型コロナ感染の危険性 ○港南区では、各施設、区役所を中心に文化・芸術を発信することが多い11月の一ヶ月間を当館では、「ひまわり文化祭月間」と定めて、実行委員会形式での音楽、美術、芸能等の各分野にわたる公演、ワークショップ、展示会等を行うことに振り替えました。	A			
避難訓練コンサートの開催	施設職員、一般参加者の防災意識の向上、啓発と地域の共生を目的として、コンサート開催時の災害発生を想定し、避難訓練を取り入れたコンサートを行う。	○第三期の延長年(R3年度)に横浜市消防局、港南区の協力を得て、避難訓練コンサート(演奏：横浜市消防局音楽隊)を行いました。参加者は、105名でした。 ○今回は、奇数年隔年で開催することを基本として計画しました。R5年度行う予定でしたが、一年繰り下げて、R6年度に避難訓練コンサートを開催することに変更しました。(R6年9月実施：演奏：アンサンブルノア、麦の穂トッテルカ)参加者は85名でした)	B			

第4期横浜市港南区民文化センター指定管理者業務評価表

【指定管理者が提案した指標】

指標	目標水準	達成状況	自己評価	行政評価	外部評価	評価委員会 (コメント)
パートナー団体を毎年増やし、プラットフォームをより強固なものとする	5年目で提案時比で10団体増加	2年目で提案時に比して、パートナー団体を11団体増加することができました (①フォトクラブ団体:4クラブ、②福祉系団体:同慶会、③教育系団体:小学校音楽教育研究会、昭和音楽大学、④音楽系団体:楽友会、アーツブレッド、日本オペラ協会、藤原歌劇団⑤芸能系団体:にぎわい座 ⑥文化系団体:長浜ホール⑥地域団体:レクリエーション協会(上大岡コミハ運営団体))	A			・パートナー団体やひまわりアーティストバンクの登録団体が順調に増えている点は評価できる。登録して終わりではなく、登録団体を自主事業で活用するなど、人が人を呼ぶような工夫を期待したい。
ひまわりアーティストアーカイブの充実	5年目で提案時比で20団体(個人含む)増加	2年目で「ひまわりアーティストアーカイブ」(=アーティストバンク)登録団体は19団体となりました。	B	B	B	
避難訓練コンサートの開催	隔年で開催(令和奇数年に開催)	当期において奇数年での実施予定(R5年度実施予定)を一年繰り下げて実施しました。(R6年9月13日コンサート実施)	B			

【業務の基準で設定している指標】

指標	2年目の目標水準	達成状況	自己評価	行政評価	外部評価	評価委員会 (コメント)
定量指標①:社会包摂の実現を目指す事業数	9事業	・高齢者向けアウトリーチ事業 7回 ・障害者向け事業(ラポールとの共催) 1回 ・障害者計8事業	B			・これまで課題となっていた駅から「ひまわりの郷」へのアクセスについては、指定管理者単独での解決が難しい状況ではあったが、管理組合との協議を重ねることで、ある程度改善できてきている。一方で、「ひまわりの郷」=港南区民文化センターと認知していない方もいるので、サイン表示の表記方法については、検討の余地があるかもしれない。 ・「ひまわり事業レポート」については、「ひまわりの郷」の活動を広く発信する良い取組であるが、発信する頻度が少ないように感じる。発信頻度を増やす、かつ定期的に発信することを期待したい。
定量指標②:地域の施設・団体と連携して実施した事業数	21事業	・地区センター等へのアウトリーチ事業(各施設と連携)17回 ・学校プラットフォーム事業(各学校と連携)5回 ・リトミックシアター事業(NPO リトミック研究センターと連携)2回 計24事業	A			
定性指標①:地域コーディネーター担当による地域との連携状況のレポート	連携事業レポートを都度ホームページにアップしている。	連携事業レポートとして、R5年度から「ひまわり事業レポート」をHP上にアップしました。地域に出張しての事業を主な内容としていますが、専任地域コーディネーターと兼任の地域コーディネーターが主となり地域の様々な団体とアーティストをつないでの事業報告としています。	B	B	B	
定性指標②:バリアフリーの視点からの来館者の声	調査分析の結果をもとに、改善策を講じるなど、施設運営に活かしている。	○当館には車椅子で来館される方も一定数おられます。不便、支障がある等の声はなく、比較的来館しやすい導線になっていると思います。 ○かねてより、ひまわりの郷へのアクセスがわかりにくいとの声がありましたが、R5年度アンケートではどの世代においても、8割の方が「経路がわかった」との結果でした。	B			

第4期横浜市港南区民文化センター指定管理者業務評価表

【使命5】持続可能性を高める施設運営を行う（様式20）
法令等に則った施設の保守・点検や日常的な予防的修繕などの維持管理を行い、安全で快適な施設を維持する。また、効率的な経費の執行や収入増の取組等により、安定的な施設運営を行う。

目標		具体的な実施状況・実績	自己評価	行政評価	外部評価	評価委員会 (コメント)
評価項目	目標水準					
保守管理業務・環境維持管理業務	関係法令および当施設の業務基準を遵守し、年間スケジュールにより適切な維持管理を行う。	<p>○舞台技術者が毎日開館前に舞台設備に劣化や異常がないか目視による点検を行いました。不具合箇所を発見した際は保守業者に速やかに対応を依頼しました。</p> <p>○会議室など諸室においても開館前に職員が点検を行ない、会場貸出準備をしました。</p> <p>○諸室ご利用後の職員によるチェックは、的確に実行されました。</p> <p>○施設の長寿命化を念頭に、提案書にあるとおり、年間設備保守点検・清掃予定表を元に保守管理、環境維持管理を進めました。</p>	B			<p>・舞台技術スタッフが毎日設備を点検するなど、利用者が安心安全に施設を利用できるよう日々取り組んでいる。</p> <p>・小破修繕などで職員が対応できるものは、職員が直接対応することで経費節減につなげることができている。開館以来年数が経過しているため、引き続き市や区と協議しながら中長期的な視点に立って修繕を実施することを期待したい。</p>
小破修繕	点検報告における不具合箇所については、常にリスク管理を行い、優先順を明確にした修繕計画を策定し、今後の大規模修繕発生の抑制に努める。	<p>○職員一人一人が些細な悪化も見逃さない、いわゆる「割れ窓理論」を身につけるように研修教育しています。</p> <p>○修繕箇所については、小破なものについては、職員で対応できるものは、修理修繕を行うことで経費削減に努めました。</p>	B	B	B	
大規模修繕と機器・備品類の更新	区や市に対して働きかけを行い、中・長期的な計画を作成する。	当館は開館してから27年経過し、要所で経年劣化による修繕箇所が発生しています。大規模修繕については、内容ごとに更新、交換、修理対応別リストを作成し、それぞれ優先順位をつけ、区へも報告、継続的に対応依頼をしました。	B			

【指定管理者が提案した指標】

指標	目標水準	達成状況	自己評価	行政評価	外部評価	評価委員会 (コメント)
大規模修繕	利用者の方々の安全性を第一に考え、対応必須な大規模修繕を実行へと移していく。	<p>○R4年度、音楽ルームに設置している「ヤマハ セミグランド コンサートマスターピアノ」が更新されました。</p> <p>○R5年度、ホールのグランドピアノが更新されました。(スタインウェイD274/フルコンサート)。開館以来長年多くの皆様に利用されてきましたが、経年劣化により本来の音色を奏でることが難しくなってきたため、更新となりました。</p>	B	B	B	・グランドピアノが更新され、利用者や来場者に好印象を与えている。定期的にメンテナンスを実施することで、長期間にわたって良好な状態を維持していただきたい。

【業務の基準で設定している指標】

指標	2年目の目標水準	達成状況	自己評価	行政評価	外部評価	評価委員会 (コメント)
定量指標①:施設の管理瑕疵に起因する事故件数	0件	施設の管理瑕疵に起因する事故件数については、0件を達成しました。	B			・施設の管理瑕疵がある事故については、ゼロを継続していただきたい。
定量指標②:法定点検等の実施	100%	法定点検等の実施については、100%を達成しました。	B			・今後も利用者アンケート等を分析しながら、利用者の声に寄り添った施設運営を期待したい。
定量指標③:修繕予算の執行率	90%	修繕予算の執行率については、192.7%でした。	B	B	B	
定性指標①:施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング	利用者の評価を施設運営に活かしている。	特定月(2月)に当館各所の利用者・利用団体に対し、「快適さ、使いやすさ」についてのアンケート調査及びヒアリングを実施しました。	B			
定性指標②:管理運営費推移の要因分析	毎月のチェックがなされており、予算のコントロールがなされている。	定例会議(月1回)において、月ごとの管理運営、事業運営にかかる経費、収入を把握し、予算のコントロールをしました。	B			

第4期横浜市港南区民文化センター指定管理者業務評価表

【使命6】新型コロナウイルス感染症の影響を想定し、施設運営を継続する(様式21)
 新型コロナウイルス感染症の影響が長期化した場合には、徹底した感染防止対策の下で、安全に自主事業及び貸館業務を実施し、市民の文化活動の基盤として施設運営を継続する。

目標		具体的な実施状況・実績	自己評価	行政評価	外部評価	評価委員会 (コメント)
評価項目	目標水準					
新型コロナウイルスの影響下での自主事業展開のルール設定	チケット販売ルールをHP等で明示する。 来場者への感染症対策並びに事業中止の場合の返金の扱い等の周知についてもHP等で行う。	<p>○市より示されたガイドラインに基づき対応しました。R4年度以降は、館独自の対応強化には至らずに推移しました。館のHP、チラシ等を最大限活用し、利用者へのわかりやすい広報を行いました。</p> <p>○自主事業についてもR4年度以降は、予定通り遂行できました。但し、KSDCについては、参加者である高校生への感染予防の配慮から、コンテストではなく、高校生たちの手でPR動画の制作と発表会の形に変更する形で遂行しました。</p> <p>○来場者及び職員への感染症対策は、公衆衛生の専門家の意見も取り入れ対応しました。なお、職員に対する「感染症予防研修会」も開催しました。</p> <p>○事業中止においては、返金等の扱いについてHP等で周知し、その結果、滞りなく返金処理できました。</p>	A			<p>・コロナ禍での対応は苦勞が多かったと思うが、ガイドラインに沿って適切に対応することで、利用者に安心して施設を利用してもらうことができた。</p> <p>・コロナ禍がきっかけとなって取り組んだインターネット配信については、需要があるようであれば今後も継続することで、利用者の満足度向上につなげていってほしい。</p>
鑑賞型・体験型事業のインターネット配信の実施	公演が中止となった場合などは、アーティストの希望により、無観客コンサートで配信を行う形でアーティストの応援をしていくほか、この状況が長期化する場合は、各ワークショップをご自宅で体験できる番組等の配信も検討する。	<p>○R4年にコロナ禍での影響を受けたアーティストへの支援事業として、横浜市に申し入れ、補助を得て、2事業を実行しました。</p> <p>① 金沢区長浜ホールの協力を得て、両区にまたがる事業として、コンサート「ヨコハマの丘と海に響き渡る弦楽の調べ」:演奏、アーツ&スプレッド</p> <p>② 「ジャズ」: 演奏、Gentle Forest 5 & Gentle Forest Sisters</p> <p>○インターネット配信できる機材の購入、体制を整備し、アーティストの要望に対応できるようにしました。</p> <p>○R4年度、「まちの音楽屋さん」のミュージカルをYou Tubeにて無料で配信しました。</p>	B	A	B	
利用者が安全に過ごせる運営体制	全スタッフへの「マニュアル」、「対応要領」の周知徹底により、安全な施設運営体制を築いている。	<p>○コロナ対応「コロナマニュアル」を始め、インフルエンザやノロウイルスなどの「感染症マニュアル」を作成、全員に周知しました。</p> <p>○令和5年5月のコロナ感染症分類5類に移行後も、引き続き緊張感をもって、対応しました。</p>	A			

◆ 収支計画及び指定管理料

利用料金の考え方と具体的な料金設定、支払方法や割引料金・減免等の運用方法の考え（様式22）

目標		具体的な実施状況・実績	自己評価	行政評価	外部評価	評価委員会 (コメント)
評価項目	目標水準					
利用料金設定	料金体系は現状維持、各種割引は継続する。	料金体系は、維持しました。各種割引については下記の通りですが、加えて市主催事業など公益性のある事業については、施設利用料金の減免を行っています。	B			・物価や光熱水費の高騰などの影響もあり、利用料金を上げざるを得ない状況ではあるが、ホールの直前施設割引やリハーサル割引など、利用者のニーズをとらえたメニューを用意している点は評価できる。 ・キャッシュレス決済のニーズは多いと思うので、早期の実現を期待したい。
ホール割引料金の設定	・直前割引制度を継続する。 ・リハーサル割引を設定する。 ・準備&リハーサル料金割引を設定する。	○ホールの直前施設割引(28日以内の練習利用予約で30%、14日以内の練習利用予約で50%の施設利用料割引) ○リハ割引(28日以内のリハ利用予約で30%の施設利用料割引) ○準備&リハ割引(同日に限り本番の前区分の施設利用料30%割引) 実施継続しました。	B			
付帯設備利用料の改定	・ドラムセットおよび譜面台の利用料を改訂する。 ・電源使用料を新設する。	○ドラムセットを新調しました。利用料金は、100円から200円に設定しました。 ○指揮者用譜面台利用料金は、100円から200円に設定しました。 ○電源利用料金は、200円/1kwに設定しました。(新規)	B	B	B	
支払方法	クレジットカード、電子マネーでの支払いを検討する。	2年目までは、不履行です。(窓口キャッシュレス化はR6年5月末より実施しました。また、新予約システムとの連動によるオンラインキャッシュレス化は、現在横浜市で継続検討中です)	B			

第4期横浜市港南区民文化センター指定管理者業務評価表

指定管理料のみに依存しない収入構造、経費削減等効率的運営の努力（様式23）

目標		具体的な実施状況・実績	自己評価	行政評価	外部評価	評価委員会 (コメント)
評価項目	目標水準					
公演やワークショップ、発表会の撮影サービスによる収入アップ	民生用撮影カメラによる定点撮影から、プロのカメラマンによる番組制作まで、幅広いメニューをご用意し、お客様のご要望に対応する。	定点撮影のデモを終了し、需要に対応できる体制を敷きましたが、需要はありませんでした。	C	B	B	<p>・社会情勢を鑑みると収入増を図ることは厳しいことは理解できるが、引き続き利用者のニーズを把握しながら、文化芸術振興の視点に立った経営努力を期待したい。</p> <p>・フライヤー制作印刷やお弁当の予約などは、金額面で折り合いがつけばニーズがあるのではないかと。</p> <p>・実績につながらなかった取組については、その原因を分析し、需要と供給のバランスを図りながら、収入増につながる取組につなげてほしい。</p>
ロケーションサービスの受け入れによる収入増と知名度アップ	対象ロケ地紹介ページに、本センターの施設紹介を掲載し、夜間や利用時間の少ないコマを利用して撮影の受け入れを行う。	指定管理を行う共同企業体を構成する企業である(株)京急アドエンタープライズが「ロケの相談窓口」となっており、対象ロケ地として当館を紹介しました。	B			
貸館利用団体向け付帯有料サービスメニューの拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・チケットやフライヤーの制作、印刷等の業務を請け負う。 ・演者やスタッフのお弁当等の京急百貨店と商品開発するなど、予約が承れる体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○フライヤー制作、印刷の受託体制を敷きましたが、需要はありませんでした。 ○弁当などの予約体制を敷きましたが、需要はありませんでした。 ○京急百貨店との季節ごとのメニューなどの商品開発には至りませんでした。 	C			
経費をかけない告知活動の強化	さらなる告知関連経費の削減を進めるため、より費用対効果の高い告知手法を講じていく。	<ul style="list-style-type: none"> ○ODMを削減、LINE登録およびLINEによる事業案内を進めました。(現在LINE登録者数 552件) ○facebook、Xを活用した広報活動を進めました。現在、facebookフォロワー数164件、Xフォロワー数393件です。 	B			
環境への配慮と省エネルギーへの取組	節電や空調温度のコントロール、またペーパーレス等、環境に配慮した省エネルギーへの取組を引き続き徹底していく。	<ul style="list-style-type: none"> ○こまめな電気のOn、Offの切り替え、空調温度の適正設定などで電気使用量の削減を図りました。 ○オフィスでのペーパーレスに心がけました。 	B			
一括購入等の消耗品費の削減	消耗品・什器備品等の購入に際しては、京急グループの流通ネットワークやスケールメリットを活かした、複数仕入れ、一括仕入れを継続し経費削減に努める。	受付職員制服を京急百貨店外商を通して購入、コストカットに努めるなど京急グループのネットを活用し、購入コストの圧縮に努めました。	B			

5年間の収支及び収支バランス（様式24）

目標		具体的な実施状況・実績	自己評価	行政評価	外部評価	評価委員会 (コメント)
評価項目	目標水準					
バランスのとれた収支	収支のバランスがとれている。	<p><R4年度収支決算></p> <p>収入合計 188,528,093円</p> <p>支出合計 185,296,646円 差引3,231,447円</p> <p>※ 自主事業収支</p> <p>自主事業収入 8,443,667円</p> <p>自主事業支出 11,690,701円</p> <p><R5年度収支決算></p> <p>収入合計 215,759,714円</p> <p>支出合計 208,958,970円 差引6,800,744円</p> <p>※ 自主事業収支</p> <p>自主事業収入 7,041,265円</p> <p>自主事業支出 10,562,434円</p>	B	B	B	<p>・概ね収支のバランスをとることができている。</p> <p>・自主事業収支比率については100%を下回っているため、その原因を分析したうえで、収支比率の改善につながる取組を期待したい。</p>

◆ 施設の運営

施設全体の運営に対するアイデア・ノウハウの一層の活用（様式25）

目標		具体的な実施状況・実績	自己評価	行政評価	外部評価	評価委員会 (コメント)
評価項目	目標水準					
京急グループネットワークをフル活用し、本センターおよび「ゆめおおおか」を文化芸術の発信基地へ	<ul style="list-style-type: none"> ・駅及び商業施設利用者が多く通過するウイング上大岡のイベントスペースを使用し、BGM 感覚で立ち止まって開けるミニコンサートを開催する。 ・京急百貨店と連携し、共催イベントやワークショップを実施することで、相互送客の取組を強化し、効率運営につなげる。 ・「京急キッズランド」との連携し、子育て支援コンテンツを展開する。 	<p>○ウイング上大岡(2F)のスペースにおいて、ミニコンサートを開催しました。港南区区民活動支援センターの主催の地域団体の諸活動発表会と併せて実施しました。また、当館PRも兼ねたクラシックコンサートを実施し、コンサートと共に多くの参加者に対して、当館の諸事業のPRも行いました。</p> <p>○文化祭において、京急電鉄、京急百貨店の協賛を得て各種サービスを得ることができ文化祭を更に盛り上げることができました。（電鉄：広報協力、百貨店：テナントにおけるワンドリンクサービス等）</p>	B			<ul style="list-style-type: none"> ・区内区民利用施設やグループ企業と連携しながら、文化芸術の拠点として取組を進めることができている。今後は恵まれた立地や優れた音響設備を生かした取組をさらに進め、これまで以上に地域住民から親しまれる施設になっていくことを期待したい。
開館25周年・アニバーサリー事業の展開	第1回「ひまわり文化祭(仮称)」を開催する。	○R5年度第1回「こうなんひまわり文化祭」を一ヶ月にわたり開催しました。(R4年度は25th「感謝祭」を開催しました)	A	B	B	
HPやSNSを最大限に活用したホールの魅力発信	公演アーティストのアーカイブと生の声をホームページ上で公開する。	○HP改訂後(R3年)ホール、各諸室の仕様、写真入りで詳しく表記できました。アーティストのホール利用後の感想をHPにアップしました	B			
舞台技術の提供により、地域とのつながりを深める	区内の団体・施設の催し物に、本センターの技術スタッフを派遣し、地域とのコミュニケーションを深め、より上質な舞台芸術の提供を実現する。	○音響技術を中心に地域からのオファーへの対応を図りました。(R5年度2回：丸山台フェスティバル、丸山大ホコテン)	A			

市の重要政策課題への対応（様式26）

目標		具体的な実施状況・実績	自己評価	行政評価	外部評価	評価委員会 (コメント)
評価項目	目標水準					
個人情報保護についての対応	個人情報保護法、横浜市個人情報保護条例に基づき、その利用目的の範囲で適切に取り扱っている。	<p>○個人情報保護法、横浜市個人情報保護条例に基づき、適切に対応しています。当館の「情報保護方針」を策定、方針は受付窓口に掲出しました。</p> <p>○実務者にとってわかりやすく表現した「個人情報保護10箇条」(文書保管、PCパスワード設定など)を策定、文書、媒体の逸出防止に努めました。</p> <p>○年一度職員全員に対する個人情報保護研修を実施しました。</p> <p>○新規採用職員に対しては、採用時研修として、指定管理制度研修と併せて本研修を実施しました。研修終了後は、個人別の情報保護にかかる誓約書を交わし、区に報告しました。</p>	B			<p>・法令順守、人権尊重、環境への配慮をはじめとした市が重要視する政策に対して、適切に対応することができている。引き続き取り組んでいただきたい。</p>
情報公開についての対応	横浜市の保有する情報の公開に関する条例の趣旨を踏まえ、独自に策定した「情報公開規程」に基づき、みだりに個人情報が公にされないよう最大限の配慮をし、保有する情報の積極的公開に努める。	<p>情報公開請求がなされた場合には、横浜市の保有する情報公開に関する条例の趣旨を踏まえた情報公開規程(館独自で策定済み)に基づいた適切な対応ができるような体制をとりました。実際には、当期においては、現在時点で本請求はありません。</p>	B			
人権尊重についての対応	横浜山人権施策基本指針に則り、施設利用をされる誰に対しても、差別のない公平、公正なサービスを提供するユニバーサルサービスの精神をもって、適切な対応を図っていく。	<p>○高齢者や障害を持つ方々の利用も多く、ハード面では舞台、客席、ホールの段差等に留意し、ユニバーサルサービスの意識をもって、対応を図りました。</p> <p>○横浜山人権推進施策基本方針の方針を踏まえ、職員への研修、新聞記事や関連資料などを回覧するなどの啓発に努めました。</p>	B			
環境への配慮に対する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヨコハマ 3R 夢プラン」に基づき、Reduce、Reuse、Recycle に努める。 ・電気機器、電灯のこまめなON/OFF活動、ペーパーレスも継続して推進する。 ・適切な空調温度により、ホスピタリティを損なわないよう配慮する。 ・日常的な節電、節水に努め、無駄のない運営に努める。 	<p>○電気機器、電灯の消灯に心がけ、空調については冷房28度、暖房20度を目標にしました。</p> <p>○温度設定目標値を掲出して、利用者のご理解を得るための努力をしました。</p> <p>○夏場の熱中症予防を視野に入れ、こまめに室温の調整を図りました。</p> <p>○オフィスエコ推進として、ペーパーレスの推進を図っています。</p>	B	B	B	
障害者差別解消に対する取組	不当な差別を行わないことはもとより、障害への理解を深め、可能な限りハード面でのバリアフリー化を図るとともに、ソフト面でもユニバーサルサービスの精神を持った対応を行っていく。	<p>○ユニバーサルデザインの7原則に沿った運営を心がけています。</p> <p>○障害者差別禁止法的主旨に則り、不当な差別の禁止、合理的配慮の提供について、職員全員が共有できるように研修内容に組み入れ、食品への啓発を図りました。</p>	B			
男女共同参画についての対応	正規職員については、育児勤務時間制度、病気休暇制度、介護休暇制度を整備し、働きやすい労働勤務体制を敷いており、窓口業務を行う職員については、短時間勤務とし、女性が就労しやすい勤務体制となっている。	<p>○指定管理業務を担う企業体を構成する三企業とも育児勤務時間、介護、病気休暇制度を整備して適切な対応を行っております。</p> <p>○R5年度末の職員構成男女比は、窓口受け付けスタッフ15名(女性)、事務所職員5名(女性)と3名(男性)、舞台技術スタッフ1名(女性)2名(男性)という構成となっています。</p>	B			
市内中小企業への優先発注	横浜市内中小企業振興条例の趣旨に則り、市内、区内中小企業を優先して修繕発注、物品調達を行う。	<p>○消耗品、備品購入は市内業者に発注しています。「ひまわり通信」など定期刊行物についても、市内業者に発注しています。修繕関係は、ビル全体の管理の関係から、市外企業にも発注しました。</p> <p>○ピアノ調律作業は、特性を熟知している専門業者(市外)に発注しました。</p>	B			

◆ 総括

目標		具体的な実施状況・実績	自己評価	行政評価	外部評価	評価委員会 (コメント)
評価項目	目標水準					
			B	B	B	<p>・コロナ禍という施設運営が難しい状況ではあったが、工夫を凝らした運営を行うことで、おおむね当初の目標を達成することができている。特に課題となっていた若年層の取込みについては、これまでなかった様々な企画を実施することで、施設の認知度向上や新規利用者の掘り起しにつなげるなど、一定の成果を上げることができた。</p> <p>・交通結節点である上大岡駅に直結する施設という強みを生かして、港南区民にとどまらず区外あるいは市外からも誘客ができるよう、音楽だけでなくダンスなどの異なるジャンルの企画にもチャレンジしていただきたい。また、引き続き学校や区民利用施設等と連携することで、文化芸術活動の担い手の育成にも力を入れていただくことを期待したい。</p>